

令和3年度おだわら市民交流センターUMECO第三者評価

○ 各委員の評価点の平均点（5点満点）

拠点	相談・支援	協働支援	学習・体験	交流	情報発信	男女共同	国際
4.4 (3.9)	3.8 (3.5)	3.9 (3.2)	3.5 (3.2)	3.8 (3.6)	3.6 (3.7)	3.4 (3.0)	3.1 (3.0)

誰でも気軽に	シェアしながら	地域の課題を解決する
3.6 (3.9)	3.6 (3.1)	3.3 (3.4)

※（ ）内は前年度の評価点

I 機能の達成状況

(1) 6つの機能

①拠点機能【4.4点】

- ・多くの市民に親しみをもって活用されており、コロナ禍にあっても感染症対策を徹底して開館するとともに、常時募集の企画展示、市民活動団体のニーズを踏まえた新たな取組であるアクティブサロン、事業者とのつながりの構築など、活動の場づくりに積極的に取り組んだ。
- ・団体登録の更新方法について、市民活動団体にとってより利便性が高いものとなるよう、またUMECOにとってもより団体を支援しやすいよう、デジタル化、項目の精査等を検討していただきたい。
- ・立ち寄りやすい立地を生かすために一般市民の意見を取り入れるなど、個別の団体の活動発表に止まらない企画を期待する。

②相談・支援機能【3.8点】

- ・相談業務について、スタッフの対応力の強化、窓口の常時開設等積極的に実施しており、また相談者を市民活動団体に紹介することにより、人材不足の解消にも取り組んでいる。
- ・資金面の支援に関し、市民活動応援補助金に係る相談対応を行うとともに、事業視察、成果展示等により支援に努めた。今後は、適切な助成金情報の発信、クラウドファンディングの活用に係る助言や講座等を検討していただきたい。
- ・相談しやすい雰囲気や仕組づくりに努め、相談員においてはマニュアル化等による情報の共有や専門性を深めるための施策を検討するなど、人材育成を進めていただきたい。また、相談内容の分析・課題抽出により、新たな事業に発展させる視点を持っていただきたい。

③協働支援機能【3.9点】

- ・コロナ禍で地域や市民活動団体の活動が低迷する時期にHello!UMECOの更新に注力し、多くの関連団体に配布した。対面での説明、ホームページへの掲載等、より効果的に活用できるように検討していただきたい。
- ・事業者とのつながりを創出できており、今後もUMECOが地域課題解決の窓口となるよう、新たな連携先の開拓を含め働きかけを継続していただきたい。
- ・各事業の実施により協働の機会を創出していると考えられる。今後は、多様な主体同士の連携についてより研究を深めるとともに、若い世代に対し、活動への働きかけやベテランとの橋渡し等を積極的に行っていただきたい。

④学習・体験機能【3.5点】

- ・コロナ禍における活動の支援のため、Zoomのレクチャーを行うとともに、対面での講座は避けてインタビュー記事を作成するなど、工夫して柔軟に対応した。
- ・若い世代を担い手として取り込む視点を常に持ち、インターンシップや学生向けの入門講座を継続・発展させていきたい。
- ・市民活動団体のニーズに沿った講座のほか、団体のレベルアップにつながるものも企画していただきたい。また、将来の活動につながる可能性を考慮し、登録団体以外にも講座等をPRすることが望ましい。

⑤交流・コーディネート機能【3.8点】

- ・各種交流会をオンラインを活用して実施しただけでなく、UMECO祭りについては2日間に分けて開催する等の工夫により、会場でのイベントも実施することができた。
- ・多様な主体間の連携を着実に促進するため、オンライン交流会、ホームページでの市民活動団体紹介の充実等、さらなる工夫に期待する。
- ・各市民活動団体の発展段階に応じた支援・コーディネートについてより研究を深めるとともに、常に新しい人たちに裾野を広げることを意識し、事業を展開していただきたい。

⑥情報の集約・発信機能【3.6点】

- ・コロナ禍という社会状況を踏まえ、多様な媒体を活用して情報発信に努めた。
- ・若い世代に訴求できる方法、例えば双方向でのやりとりによりニーズの収集が可能なSNSの活用等も検討いただきたい。
- ・各団体と連携をとりながら情報を集約し、課題解決のヒントとなるような情報発信を意識するとともに、デジタル化の観点から、各団体情報のデータベース化、団体ページの拡充等、各種支援策を見直していただきたい。

(2) その他

①男女共同参画【3.4点】

- ・男女共同参画の視点を踏まえた企画展示等に取り組んでおり、若い世代も交え、関連団体間でのさらなる連携に期待する。
- ・全ての主体が前提として認知すべきテーマとして、UMECO独自の事業実施についても検討していただきたい。

②国際交流【3.1点】

- ・国際交流に係る企画展示、行政と連携したPRスペースの設置のほか、日本語教室を主催する登録団体に活動エリアを活用いただいた。日本語教室へのオンライン化の提案等、活動継続のためのさらなる支援を期待する。
- ・市の施策で共生社会が重点項目に掲げられていることを踏まえ、国際交流の推進と日本語を母語としない人たちへの支援の両面から、UMECOならではの主体的・積極的な活動を展開していただきたい。

II コンセプトの達成状況

①誰でも気軽に つながりを生み出すきっかけの場【3.6点】

- ・新しい生活様式を踏まえた様々な創意工夫により事業を継続して実施しており、市民活動のきっかけの場を数多く提供した。
- ・with コロナも見据えながら、優先順位を定めて事業に注力していただきたい。
- ・UMECOや市民活動のことを知らない層（若い世代、企業、地域等）に興味を持ってもらえるよう、アウトリーチ活動、多種多様な場への広報活動等、ターゲットとそこに至るアプローチ方法に留意しながら事業を実施していただきたい。

②シェアしながら それぞれの思いが繋がる行動の場【3.6点】

- ・団体同士の交流について、テーマの工夫とともに、コミュニケーションツールの利便性を生かし、オンラインイベント等も併用し着実に実施しており、登録団体間の横のつながりの保持に努めた。
- ・市民活動団体の発展や連携につながるよう、講座については、団体のマネジメントに資する内容等に加え、会場とオンラインの併用による開催など、with コロナを意識した事業の在り方を検討していただきたい。
- ・NPO法人を含む新しい団体や、市民活動団体以外の主体との連携も必要であり、交流会のテーマやコーディネート方法等工夫をしていただきたい。

③地域の課題を解決する 行動を社会貢献につなげる実現の場【3.3点】

- ・特に事業者との連携を積極的に推進しており、コロナ禍でも無理のないつながりの構築に努めた。
- ・地域の課題解決に向け、中間支援組織としてのUMECOには積極的に地域と関わり、市民活動団体の紹介等を行うとともに、地域で得られた情報をもとに事業を企画し、団体への支援につなげられるよう期待する。
- ・多様な主体間の連携を促進するため、幅広い分野の協働事例の収集・発信を行うとともに、職員のスキルアップや外部専門家の活用等により、コーディネート体制の強化に取り組んでいただきたい。
- ・市民活動団体への支援にあたっては、具体的な道筋を立てるために役立つ専門知識の学びの機会を提供したり、より高度な相談に対応できる体制を整えたり、UMECOに寄せられた寄附金を有効に活用すること等を検討していただきたい。

Ⅲ まとめ

新型コロナウイルス感染症の影響が依然として続く中で運営を継続し、市民活動団体の紹介冊子であるHello!UMECOの更新、Zoomのレクチャー、UMECO祭りの分散開催、新たな事業者との連携構築等、時勢に応じ柔軟に事業を実施したことを評価する。

今後は、withコロナを見据え、団体のニーズ把握に努めた上で、活動を地域課題の解決につなげられるよう、より専門的な支援策を講じていただきたい。そのためには、地域や事業者との連携、若い世代への働きかけ、デジタル化、職員のスキルアップ等がこれまで以上に重要となると考えられる。

また、令和4年度から活動エリアのレイアウトや運用ルールを変更したことについて、引き続き団体の声を聞きながら、より活動しやすい施設を目指し、改善を続けていただきたい。